



好評企画!

特集

# 「世界の今」をつかむ! 英語の新語30

英語の新語は日々生み出されています。一瞬だけはやり、すぐに消え去ってしまう言葉も数多くありますが、新しい言葉として定着しつつある語もたくさんあります。そういった新語を見ていくと、「世界の今」の姿が浮かび上がってきます。

今月号では、「単なる瞬間的な流行語」ではなく、ある程度一般的になりつつある言葉として、2024年に新たに一部の辞書に加わったものを中心に、30個の新語を取り上げます。会話例や使用例を通じて、これらの新語がどのような場面で、どんなふうに使われるかを早速チェックしてみましょう!

執筆: EE編集部



科学技術や医療技術の発達によって、昔は存在しなかった新しい言葉が生まれています。環境に関する言葉も、次々と生み出されています。

## heat dome

ヒートドーム、停滞する高気圧による「ドーム状の高温帯」

高気圧の停滞によって熱い空気の「ふた」が形成されることで、地表の温度が劇的に上がる「ドーム状の高温帯」が heat dome (ヒートドーム) です。ヒートドームのために2024年夏には、アリゾナ州などでは最高気温が40°Cを超える日が続きました。緑の少ない都市部では特に、urban heat island (ヒートアイランド〔現象〕) と相まって、相当な酷暑になりえます。

### 会話例

**A:** I hear there's a heat dome causing extreme temperatures on the West Coast.

**B:** Yeah, I saw on the news that there have even been deaths because of it.

**A:** 「ヒートドーム」のせいで、西海岸は気温がすごく高くなってるらしいよ。

**B:** うん、そのせいで亡くなった人までいるってニュースで言っていた。

## zero-dose

ゼロ接種の

dose は「(薬などの1回分の) 服用量」という意味なので、zero-dose とは「何も服用・摂取していない」、つまり「予防接種を受けたことのない」という意味の形容詞です。WHO (世界保健機関) によると、zero-dose children 「ゼロ接種の子どもたち」の数は、2023年に世界中で1500万人弱となったそうです。

### 会話例

**A:** I hear Wendy's son is zero-dose. He's never been vaccinated, apparently.

**B:** There seem to be more children like that nowadays. I'm worried they won't have enough resistance to disease.

**A:** ウェンディの息子さんは「ゼロ接種」だってね。予防接種を一度も受けたことがないらしいよ。

**B:** 最近そういう子どもが増えているみたいだね。病気への抵抗力が弱いだろうから、心配だよ。



## autumn sneezing syndrome

秋の花粉症

花粉症を含む、さまざまなアレルギーによって引き起こされる、風邪に似た症状のこと。「花粉症」と言えば春先に発症するイメージでしたが、最近ではブタクサなどによる「秋の花粉症」にかかる人が増えています。なお、数週間から数カ月も風邪のような症状が続くことを long cold 「長風邪」と呼びますが、こちらも比較的新しい表現です。

### 会話例

**A:** My nose is runny, and I've been sneezing a lot lately. I think I may have what they

call “autumn sneezing syndrome.”

**B:** Oh, no—you too? I haven't been feeling too well either.

**A:** I think house dust may also have something to do with it.

**A:** このところ、鼻水が出るし、くしゃみもひどいんだよね。「秋の花粉症」ってやつにかかったのかも。

**B:** え、やだ、君もなの？ 僕もあまり体調がよくないんだ。

**A:** ハウスダストも影響しているのかもしれない。